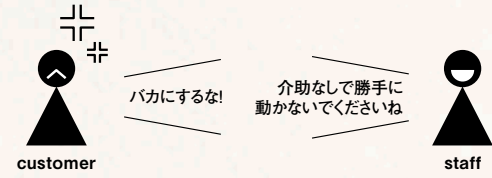


福祉美容の現場で、発生しやすいトラブル

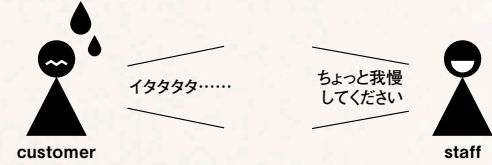
現状、「福祉美容の資格がないと施術を行えない」などの法的ルールはない。そのため、福祉の知識を持たずにボランティアで行なう理美容師も多く、理美容師と利用者とのトラブルは後を絶たない。苦情となりやすい行為は以下の3つ。



高齢者に対して配慮のない行動や発言

高齢者は身体に衰えを感じている反面、長く人生を生き抜いてきた自信と誇りがある。そのような面に配慮せず、理美容師が高齢者の自尊心を傷つけるような発言・言動をしてトラブルに発展するケースが多い。高齢者に寄り添うように接することが大切だ。

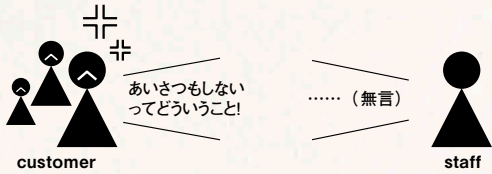
問題 1



施術中での身体的苦痛

自宅や施設での施術となるため、寝たままの状態ではシャンプーやカットする技術を身につけておかないと高齢者へ多大な負担をかけ、苦情につながる。また、多くの高齢者は同じ姿勢を長時間維持することが困難なので、施術は手際よく済ませることが大切だ。

問題 2



訪問時のマナー

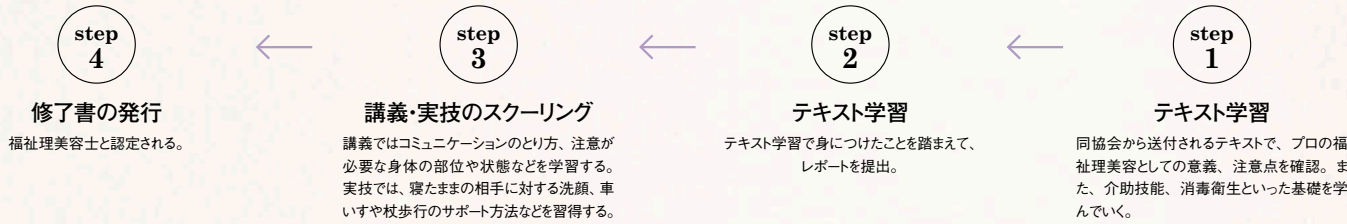
「床に髪の毛が散乱したままだった」「ビリビリに破れたジーパンで来訪した」など、理美容師の訪問時マナーに関する苦情も多い。訪問する際には利用者とその家族などに対して失礼がなく、訪問したことを喜んでもらえるような身なりや行動を心がける。

問題 3

よりよい福祉美容の環境を整えるには

安全安心な福祉美容サービスの提供を可能にする環境づくりには、美容の技術はもちろん、福祉の知識を身につけた、美容と福祉のスペシャリストが必要。そこで、NPO法人 日本理美容福祉協会では「福祉理美容士」の資格を設置している。同資格を取得するには下記のようなステップを踏む必要がある。

図：福祉理美容士の資格取得までの流れ



まとめ

正確な介護福祉の知識を身につける

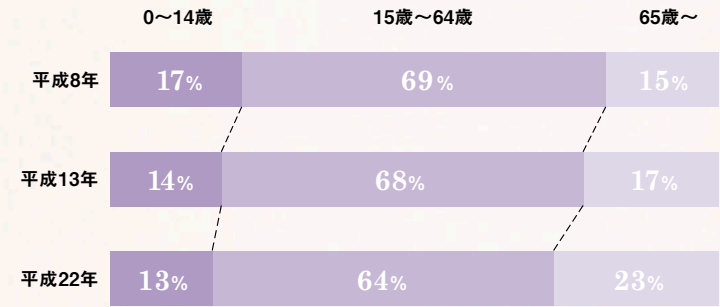
超高齢化社会である今、福祉美容のニーズは高まっている。福祉美容に従事する際は、その前に、資格の取得などを通して、介護福祉についてきちんと学習することが重要である。

高齢化社会と福祉美容

高齢化社会と言われる現状（図参照）と福祉美容の関係性を整理しておく。

総人口において65歳以上が23%を占める
超高齢化社会を迎えている。

図：総人口に占める高齢者の割合の推移



出典：「人口推計」総務省統計局

そこで…



高齢者や外出困難者を対象に、自宅、病院、特別養護老人ホームなどの施設に理美容師が訪問し、サービスを提供する福祉美容のニーズが今後より一層高まる。

深める知識、美の福音

Beauty Intelligence

特別養護老人ホームでの施術。福祉理美容に関心を寄せる理美容師は年々増えている。



社会に向けて美容ができること

福祉美容の現状

前編／高まる福祉美容ニーズ

65歳以上の人口が23%という超高齢化社会を迎えている今、福祉美容が注目を集めている。その正しい知識と現状を今いちど把握しておこう。

サービスの普及と人材育成が課題

内閣府認証NPO法人
日本理美容福祉協会理事長
鈴木心一

高齢化社会と福祉美容
高まるニーズに備えて

高齢化社会に伴い、年々需要が高まっている福祉美容。その一方、美容の知識や技術は備えているものの、福祉の知識を持たない理美容師が現場に出て利用者とのトラブルが起こる……といった問題も増えている。今、私たちは福祉美容に関してどのようなことを把握すべきなのか。訪問理美容サービスの普及と人材育成に取り組んでいる、内閣府認証NPO法人 日本理美容福祉協会の鈴木心一理事長に聞いた。

「当協会が発足したのは、2000年です。当時は、高齢者に向けた自宅訪問の理美容サービスは、ボランティアとして行なわれることがほとんどでした。しかしこの先、より一層高齢化が進むことを踏まえ、そのニーズが高まるのは必須であり、時代に対応していくにはひとつの事業として成立させないといけないと私は感じていたのです。また、雇用面でも、特に女性は結婚出産を機に美容師業から離れることが多く、再び雇用につくような場が必要と考えて

いました。このような2つの必要性から当協会を発足させたのです。人材育成も大きな課題のひとつ

同協会では2004年から、独自のカリキュラムを作成し、福祉理美容士の養成に力を入れている。福祉美容（訪問理美容サービス）は、いわゆる理美容師としての知識や技術、経験に加えて介護福祉の知識が不可欠になってくるからだ。しかし今もなお、それらの知識を持たずにボランティアで訪問理美容を行ない、介護面でトラブルとなっているケースが後をたたない。「当然ながら、同じ理美容でもサロンで行なう施術と自宅などで高齢者に行なう施術で必要な技術や知識は、全く異なります。だから、福祉の知識なくして現場に出るのはとても危険なことで、場合によってはけがを負わせたり、さらには命を奪ってしまうこともあります。自分の美容技術で社会に役立てたいと考えている人こそ、きちんと勉強する必要があります。」利用者にも安全なサービスを提供するためにも、福祉の基本知識を兼ね備えることが必要だ。



すずき・しんいち／内閣府認証NPO法人 日本理美容福祉協会理事長。東京・北区を中心に5店舗の美容室を展開している。